

2024年9月22日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒23番（旧152番）（KH姉）

『聖なる聖なる聖なるかな』

聖書⇒マタイによる福音書24章36~42節（MM姉）

『「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。ただ、父だけがご存じである。人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして、洪水が襲って来て一人残らずさうまで、何も気がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである。そのとき、畑に二人の男がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。二人の女が臼をひいていれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。』

礼拝讃美歌⇒209番（旧200番）

『いつかは知らねど』

聖書⇒ヨハネによる福音書14章15~17a、27節（ES姉）

『「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である。

わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。』

礼拝讃美歌⇒241番（KH兄）

『主の御稜威と』

聖書⇒イザヤ書40章28~31節（SK兄）

『あなたは知らないのか、聞いたことはないのか。

主は、とこしえにいます神／
地の果てに及ぶすべてのものの造り主。
倦むことなく、疲れることなく／
その英知は究めがたい。
疲れた者に力を与え／
勢いを失っている者に大きな力を与えられる。
若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れようが
主に望みをおく人は新たな力を得／
鷲のように翼を張って上る。
走っても弱ることなく、歩いても疲れない。』

(祈)

《パン裂き》

聖書⇒ルカによる福音書 22 章 19~20、27 節 (KH 兄)

『それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。」

食事の席に着く人と給仕する者とは、どちらが偉いか。食事の席に着く人ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。』

(式)

礼拝讃美歌⇒148 番 (旧 94 番曲)

『主の御名により』

《建徳》

聖書⇒創世記 32 章 23~32 節 (NH 兄)

『その夜、ヤコブは起きて、二人の妻と二人の側女、それに十一人の子供を連れてヤボクの渡しを渡った。皆を導いて川を渡らせ、持ち物も渡してしまうと、ヤコブは独り後に残った。そのとき、何者かが夜明けまでヤコブと格闘した。ところが、その人はヤコブに勝てないとみて、ヤコブの腿の関節を打ったので、格闘をしているうちに腿の関節がはずれた。「もう去らせてくれ。夜が明けてしまうから」とその人は言ったが、ヤコブは答えた。「いいえ、祝福してくださるまでは離しません。」「お前の名は何というのか」とその人が尋ね、「ヤコブです」と答えると、その人は言った。「お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる。お前は神と人と闘って勝ったからだ。」「どうか、あなたのお名前を教えてください」とヤコブが尋ねると、「どうして、わたしの名を尋ねるのか」と言って、ヤコブをその場で祝福した。ヤコブは、「わたしは顔と顔を合わせて神を見たのに、なお生きている」と言って、その場所をペヌエル（神の顔）と名付けた。ヤコブがペヌエルを過ぎたとき、太陽は彼の上に昇った。ヤコブは腿を痛めて足を引きずっていた。』

聖書⇒ホセア書 12 章 4~5 節

『ヤコブは母の胎にいたときから／兄のかかとをつかみ／力を尽くして神と争った。神の使いと争って勝ち／泣いて恵みを乞うた。神はベテルで彼を見だし／そこで彼と語られた。』

聖書⇒ルカによる福音書 22 章 51 節

『そこでイエスは、「やめなさい。もうそれでよい」と言い、その耳に触れていやされた。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 21 章 1~4 節 (KH 兄)

『わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあつて、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってください。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初ものは過ぎ去ったからである。』

聖書⇒テサロニケの信徒への手紙一 5 章 16 節

『いつも喜んでいなさい。』

聖書⇒フィリピの信徒への手紙 4 章 4 節

『主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。』

礼拝讚美歌⇒194番（旧 112番）（KH 兄）

『まもなく主来ます』

《建徳要旨》